

本校の思春期健康教育への取組

香取市立山田中学校

1 本校の概要

本校は香取市の東部にあたり、緑に囲まれた自然豊かな高台に位置している。

八都小、八都第二小、府馬小、山倉小、第一山倉小の5校の小学校から入学生を迎えている。しかし、各小学校とも生徒数が減少しており、来年度より5校が1つにまとまり、山田小学校としてスタートすることになっている。山田小学校の校舎は、本校の敷地内に建設中で、来年度からは小中の交流も増えるのではないかとと思われる。

保護者は学校行事などに対して協力的で、本校卒業生も多いため、保護者間の結びつきも強い。また、社会体育的行事も盛んで、小学生の頃から、野球、サッカー、ミニバス、柔道、剣道などのクラブに加入していた生徒も多数いるため、保護者同士のつながりも強くなっている。祖父母が同居している、または近くに住んでいる家庭が多く、たくさんの愛情を受けて育っているため、気持ちが優しい生徒が多く、落ち着いた生活を送っている。

2 思春期健康教育の取組

(1) 保健体育科での授業（保健学習）

保健体育科（保健分野）で1年生においては「心身の発達と心の健康」、3年生においては「健康な生活と病気の予防」を指導することになっている。

本校では、1年生は「体の発育・発達」「生命を生み出す体への成熟」「思春期の心の変化への対応」の単元を、3年生では「感染症の原因」「性感染症とその予防」「エイズとその予防」の単元を男女共習で行い保健体育科教諭と養護教諭のTTによる指導を実践している。

授業は、小グループでの話し合い活動を多く取り入れることにより、生徒一人ひとりが自分のこととして考えられるように工夫している。



また、知識面だけでなく、心理面にも重点を置き、思いやりや共生の気持ちを育てていけるような言葉かけを心がけている。

(2) 技術・家庭科での授業（家庭分野）

技術・家庭科（家庭分野）では「家族・家庭と子どもの成長」の単元の中で、自分の成長と家族のかかわりや、幼児とのふれあいを通して幼児への関心を深め、幼児が育つ環境としての家庭を考える学習をする。そこで本校では、昨年度、「赤ちゃん先生プロジェクト」という活動に参加した。この活動では、0歳～3歳ぐらいの乳幼児及びその母親を講師に招き、乳幼児とふれあったり、育児について母親から話を聞いたりした。

〈生徒の感想から〉

- ・「お姉ちゃんが帰ってくると忙しくなるから、帰ってくる前に赤ちゃんをお風呂に入れてくなくてはいけない」と聞いた時、（私は長女なので）私のお母さんもきっと大変だったんだろうなと思いました。家族に感謝したいです。
- ・赤ちゃんに触れ合って、色々と気をつけな
いといけないところを知りました。赤ちゃんの手がすごく小さいのが印象に残りました。かわいかったです。
- ・小さい子が二人いるとあっちを見たりこっちを見たり、気を使わないといけないので、それを毎日やるとなると、お母さんはすごいなと思いました。
- ・赤ちゃんに触れ合っているときは、いつもより時間が短く感じました。みんな思っていた以上にかわいかったです。
- ・赤ちゃんがどんな子か不安に思っていたが、グループのところに来てくれるとすぐにタッチをしてくれて、とても嬉しかった。実際の幼稚園のスケジュールを見たり、生まれた時と同じ重さのぬいぐるみを持ったりして、とても良い時間でした。



(3) 学校行事における思春期健康教育

香取市では、「思春期にある者が、生命・性・健康について理解し、自律した行動がとれるよう、関係者が連携して、思春期保健の認識を高め、思春期保健体制の向上を図る」ことを目的として平成17年度より児童生徒を対象とした思春期講演会を開催している。

本校では毎年3年生を対象に行っており、医師や助産師を講師に迎えて実施しているが、ここ数年は、「尊い命 性感染症の予防」をテーマにし、旭中央病院泌尿器科の中津先生にご講演をいただいている。

〈生徒の感想から〉

- ・性感染症は、自分だけが気をつけるのではなく、周りの人も気をつけないと広まってしまうことがわかりました。みんなが性感染症の予防方法をしっかり覚えておくことが大切だと思いました。
- ・性感染症の最大の予防法は、その病気についてより深く理解することだと思うので、この講演を聞いて良かった。
- ・自分たちに近い年齢の人も性感染症になっていて、びっくりした。将来、自分のこと、相手のことを考えて生きていきたい。
- ・性感染症が身近にあるのだと理解することができ、また、感染しているからといって差別することは、絶対にあってはいけないと思いました。
- ・感染しないために、予防を怠らないことが大切だと思いました。
- ・自分がおとなになる前にちゃんと、今回のような話をしてくれる人がいてよかったと思いました。



1年生は、毎年家庭教育学級において生徒・保護者を対象に講演会を行っている。昨年度は「命の大切さ、こころとからだの話」をテーマに県立佐原病院の高田看護師、石橋看護師の2名にご講演をいただいた。

〈生徒の感想から〉

- ・たくさんの苦勞をして生んでくれた命を、自分の勝手に無駄にしたくはないので、悩みは相談して、自分の命と心を大切にしていきたいです。
- ・悩みを聞いてくれる友達がまわりについて、すごく幸せなことなんだと思います。私も悩みを聞ける友達になりたいです。
- ・いつも何気なくできていることや友達、家族と楽しく過ごせているのは、これまでまわりの人に大切にされてきたからだなど、改めて実感したし、これからは大切な命をそまつにあつかわないよう、毎日ありがたみをもって楽しく過ごしていきたいです。



- ・この講演を聞いて、生きたくても生きられない人がたくさんいることを知りました。だから、僕は自分の命を大切に生きたいと思いました。つらい時は、「明けない夜はない」という言葉を思い出してがんばりたいです。
- ・この講演を聞いて、親への思いが変わりました。聞く前は、いつも怒っていてきびしくていやだと思っていました。ですが、自分のことを一番わかってくれていて、自分を苦しい思いをして生んでくれてとっても感謝している気持ちになりました。

3 成果と課題

保健体育の授業では、保健体育科教諭と養護教諭がTTで授業を行うことにより、それぞれの専門性を生かした授業を行えている。また、男女共習で行うことで、生徒たちは男女間の考え方の違いを感じ、お互いを尊重する意見も出されるようになった。そして、この授業を実施後、期間をあげずに思春期講演会を実施し、医師から話を聞くことで、より深い学びとなっている。しかし、中には「性感染症は恐ろしい病気だ」というとらえ方をしてしまう生徒もあり、正しい知識があれば、決して恐ろしい病気ではないことをきちんと理解させていく必要がある。「赤ちゃん先生プロジェクト」では、ママ講師から、出産や育児について話を聞くことで家族の苦労を知り、自分も家族から大切にされて育ってきたことを感じる事ができた。

反面、複雑な家庭環境で育ってきた生徒にとっては、この活動が苦痛と感じられることも考えられるため配慮が必要である。

今後は、他教科との関連や家庭、地域との連携を深め、さらに充実した思春期健康教育を継続していけるよう取り組んでいきたい。